

第1回 総合計画審議会 会議録（要旨）

1 会議名

第1回 総合計画審議会

2 開催日時・場所

日時 2025年2月7日（金）午後4時00分から午後5時30分

場所 須坂市役所東庁舎第四委員会室

3 出席者

（1） 委員

遠藤 守信 委員、竹内 敬昌 委員、小池 奈津 委員、豊田 清寧 委員、
酒井 志恵子 委員、春原 博 委員、神林 利彦 委員、高橋 洋子 委員、
永田 繁江 委員、古川 茂紀 委員、児玉 慎一郎 委員、星名 実紀 委員、
遠藤 守 委員（オンライン出席）

（欠席）西澤 賢 委員、土本 俊和 委員、宮島 麻悠子 委員

（2） 市長

（3） 幹事

副市長、総務部長、健康福祉部長、市民環境部長、社会共創部長、産業振興部長、
まちづくり推進部長、水道局長、消防長、教育次長、議会事務局長

（4） 事務局

政策推進課長、政策推進課長補佐、政策推進課職員

4 協議状況（会議事項）

（1） 開会

（2） 委嘱状交付

（3） 市長挨拶

市長

本日は、第1回の総合計画審議会を開催いたしましたところ、大変お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。また、非常に重要な総合計画審議会の委員に就任していただきまして、ありがとうございます。重ねて御礼申し上げます。

総合計画審議会は、須坂市の総合計画審議会条例により設置されておりまして、須坂市の開発・発展に関する、将来構想及びこれに即する長期計画に関する重要な事項について、市長の諮問に応じて調査審議していただきます。

委員の皆様には、学識経験者の方、公募による市民の方、そして、その他市長が願う方の16名で組織するとされております。

第六次総合計画・後期基本計画の策定及び、須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂をお願いするわけですが、それについて若干説明をさせていただきます。

2021年度、始期とする第六次総合計画・前期基本計画が来年度、2025年で終了することとなっております。5年前と比較いたしまして、社会情勢や国の各種戦略が大きく変化しているため、施策を時代に即した計画に見直す必要があるため、今回改訂をお願いするものでございます。

須坂市の抱える課題と対応方針について申し上げます。

一つ目の課題としまして人口でありますけれども、現在の須坂市の人口ビジョンでは、2030年の総人口が国立社会保障・人口問題研究所の2018年推計では4万4571人となっておりますが、総合戦略では、これに比べまして、2228人多い4万6799人と推計し、国の市人口推計よりも多い推計をしております。

これに基づいて2030年の目標人口を4万6800人と設定しているわけでありまして。今のところ、今申し上げました目標人口の4万6800人の設定に対しましては、各年で目標人口を上回るペースで推移しております。

国の人口推計、そして、総合戦略の推計よりも上回ったペースで推移しているわけですが、今後、高齢化率も上昇する見込みであり、生産年齢人口の減少が避けられないという課題がございます。

なお、年代別の人口異動状況では、30代以降の子育て世帯の社会増が顕著であり、令和元年東日本台風の時を除きまして、転入人口のほうが転出人口よりも多いという社会増でありました。

しかしながら、大変残念なことに、先日発表されました、2024年中の人口増減で須坂市の場合は、転入者が転出者よりも10人少ない社会減となりました。

私自身としては非常に危機感を持っております。社会減になった要因を分析して、戦略を立てることが大事ではないかなと思っております。

また、須坂市の場合には、高校・大学との連携を非常に盛んにやっていただいております。高校の探究型学習、それから蔵の町並みキャンパス事業で、高専や大学との連携をしております。またデュアルシステム等で産業界とも連携をしております。

これらをさらに進化させるとともに、産業界との結びつきを強めていくということが大事ではないかなと思っております。

このまちに住み続けたい、このまちに戻ってきたい、このまちに貢献したいという思いを抱いてくれる方を、より多くしていくことが大事ではないかなと思っております。そして、須坂市に誇りを持ってもらえるような、教育をしていくことが大事ではないかなと思っております。

二つ目の課題は、厳しい財政状況であります。

インター産業団地の立地等によりまして、産業の活性化を図っております。また、ふるさと納税が長野県1位でございますが、社会保障費の増加、道路等のランニングコスト、維持管理費の増加等によりまして、経常経費が増加してきております。

また、様々な、建設投資をしましたので、いわゆる市の市債が増え、それらの償還も増えてきます。そしてこれからは大型事業として市庁舎の建て替え、子供たちのための小中学校の再編なども見込んでおりますので、厳しい財政状況が続くと思っております。

しかしながら、持続可能な市政運営を図るため、社会変化や市民ニーズにこたえて、市民の皆様や民間団体と一緒に、サービス水準の適正化や、行財政改革について、現事業の見直しを、将来に備えて抜本的にしていく必要があると思っております。

今後、策定過程での市民参加でございますが、今日御出席いただいております、遠藤守信先生に教えていただきました、共創のまちづくりを基本として行っていくことが大事ではないかなと思っております。

現行の第六次総合計画・前期基本計画の答申の中で、第六次総合計画の将来像である豊かさと幸せを感じる共創のまち 須坂を実現するためという言葉がございます。共創のまちを大切にしていきたいと考えております。

一人ひとりのあり方や目標が異なっているけれども、それぞれが多様性を生かしながら切磋琢磨し、また協力することで、豊かさや幸せを市民で共有することができると思っております。

施策の推進に当たりましては、市民、団体、企業等、各主体の役割を意識し、一層の今申し上げました共創により、計画を推進していくということが答申の中で述べられておりますので、この内容を受け継ぎ、次期計画においても、市民の皆様と、知恵と力を出し合いながら、共創によりまして急激な時代変化に十分対応し得る新しい時代のまちづくりの構想となるよう作業を進めていく必要があると思っております。

今回の市民意識総合調査では、須坂市の現状についての資料を同封し、厳しい財政状況や将来見通しについて理解を深めていただいた上で、将来を担う1人の市民として、自助、共助、そして、公助を重視した調査形式としたいと思っております。そして市民の自主的な取組と行政の適切なサポートが両輪となり、今申し上げました共創により、厳しい将来を乗り越えていけるものと考えております。

また、若者の皆さんへの意識調査を実施し、幅広い世代から意見を聞いていきたいと思っております。将来を担う子供・若者の意向を踏まえ、将来に夢が持てるような、総合計画にしていけることが大切ではないかなと思っております。

策定作業を進めるに当たり、市民との共創を一層推進するための計画、そして、この総合計画は、行政の最上位計画でありますので、市民に分かりやすい計画、そして、適切な現状把握と、須坂市の強み、弱みをとらえた、実践的かつ実効性の高い計画となりますようお願いする次第でございます。

皆様方におかれましては、大変御多忙の中、これからの市政全般にわたる基本的な計画となります総合計画の策定に当たり、お力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

(4) 委員、幹事及び書記の紹介

(5) 会長選出

—遠藤守信委員を会長に選出—

会長

ただいま御指名いただきました遠藤と申します。

大変重責をいただきまして大変恐縮しておりますと同時に、果たして私にこの大事な職責が務まるか少々心配に思っているところです。

先ほど三木市長の御挨拶にもございました、須坂は住むことに誇りの持てるまちというのが、市民の皆さんも実感していることと存じます。

これは長い須坂市の歴史で、これまでの幾多の諸先輩の皆さんの御尽力、そして三木市長を初めとする、行政の皆さんの多大な御尽力で今、須坂市は長野県においても、十分存在感のある、また市民の皆様が幸せを感じ住むことに誇りの持てるまち、そういうものに一層近づいているような、そんな感覚を日頃抱いております。

ぜひ市民の皆様、そして行政がこれから目指すべき具体的な方向性が見えると同時に、市民がこれからつくります一つの答申に対して、納得し、そして市民にも協力いただき、みんなが自信と確信を持ってここに住むことに幸せを感じるようなまちを目指して、そして単に文書が連なるだけの報告書ではなく、そこに夢があり、そして魅力があり、そして人々が本当に報告書を見て、未来に確信が持てるような、そういう思いを込めた立派な報告書ができるように、皆様の御協力のほど、ぜひよろしくお願いいたします。

少々長くなりましたがどうぞ、非力な私でございますが、皆様の御協力あつてのこの委員会だと認識しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(6) 第六次総合計画・後期基本計画の策定及び人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂の諮問

―市長が諮問書を朗読し、会長へ手渡し―

(7) 会議事項

①会長職務代理者の指名

―豊田委員を指名―

②第六次総合計画・後期基本計画の策定について

会長

第六次総合計画・後期基本計画の策定及び人口ビジョン、まち・ひと・しごと総合創生総合戦略の改訂につきまして、まず事務局から説明をお願いいたします。

政策推進課長補佐

総合計画・後期基本計画の策定及び人口ビジョン、まち・ひと・しごと総合創生総合戦略の改訂につきまして、関連がございますので、一括して説明申し上げます。

まず総合計画の役割と位置づけについてであります。総合計画は、長期的な展望に基づいて、須坂市が目指す将来像を描き、その実現に向けてどのような行政運営を行っていくかを取り決める、最上位の計画という位置づけになります。

総合計画は、行政経営の羅針盤となるものですが、多様化し、複雑化する地域課題に対応するには、行政だけでは限界がございます。このため、本計画には市民、企業活動団体、行政が協働で取り組む共創のまちづくりの指針という側面を持たせてございます。

次に、総合計画の構成や期間等でございますが、基本構想が10年、基本計画の前期が5年、後期が5年、それから1期3年で毎年見直しを行う実施計画という体系になってございます。

なお今回見直しを行うのは、基本計画の部分の前期基本計画でございます。

次に、後期基本計画の策定の背景ですが、前期の計画期間が2021年から2025年度までとなっておりますので、2025年度中に、2026年から2030年度の後期基本計画を策定するものです。

次に、後期基本計画策定の基本的な方針でございますが、第六次須坂市総合計画の将来像である「豊かさと幸せを感じる共創のまち 須坂」を実現するため、前期基本計画の基本的な枠組みは継承しつつ、前期基本計画での成果や時代の変化を踏まえ、施策の成果手法や取組内容などの見直しを行って、策定するものでございます。

具体的には、施策体系図の1番下の施策に39の施策がございますが、基本的に今回見直しするのは、この39の施策になります。

この39施策を、社会状況の変化に合わせて見直しを行います。ただ、施策は必ず39施策でなければいけないというわけではなく、施策を一つ追加してもいいですし、削除しても構いません。

具体的にどのように見直すかといいますと、まず、委員の皆様の御意見を参考にさせていただきながら、総合計画庁内策定委員会という庁内組織で、分野別の計画原案を策定して、審議会にお諮りいたします。その後、修正し、審議会というサイクルを繰り返して、後期基本計画をつくり上げていきます。

委員の皆様には、原案について、こんな事業に取り組んだほうがいいのか、指標内容を変えたほうがいいのか、目標値を変えたほうがいいのか、委員から御助言をいただきたいと思います。委員の皆さんのそれぞれの立場や、専門分野があると思いますので、その分野の施策を中心に、御助言をいただければと思います。

その際の判断材料といたしまして、今回配付させていただきました資料や今後実施予定の、市民意識調査の結果などを参考に、御意見をいただければと思います。

③人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

政策推進課長補佐

続きまして、須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略について説明をさせていただきます。

まず、総合戦略の役割と位置づけについてであります。高齡化に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくための施策についての基本的な計画となっております。

総合戦略の構成や期間等ですが、総合計画の基本構想が 10 年となっております、その中に総合戦略が含まれております。

次に総合計画から総合戦略を分離することについて説明申し上げます。

国は、少子高齡化や東京圏への人口集中による、地方の人口減少などの課題の解決に向けて、2019 年までの第 2 期、2020 年度から 2024 年度の総合戦略を策定し、地方創生の実現に向けた政策の方向性を提示しました。

須坂市においても、第六次総合計画・前期基本計画の策定に合わせて、2015 年に策定した総合戦略を抜本的に見直し、第六次総合計画に組み込む形で、現在に至っております。

その後、国では、デジタル技術の活用によって、地域の個性を生かしながら、地方の課題解決や魅力向上の取組を加速化、深化することを目的に、第 2 期総合戦略を抜本的に改訂し、デジタル田園都市国家構想総合戦略、計画期間は 2023 から 2027 年度を、2022 年に策定をいたしました。

また、国では 2024 年 10 月に、新しい地方経済生活環境創生本部を設置しまして、昨年 12 月に地方創生 2.0 の基本的な考え方を決定し、現在に至っております。

地方自治体においては、まち・ひと・しごと創生法第 10 条において、人口減少と将来の展望を提示する地方人口ビジョンを策定しまして、これを踏まえて、5 か年の目標や施策の基本的な方向具体的な施策をまとめた地方版総合戦略を、国の総合戦略を勘案して策定するよう努めることとされております。

こうした国の方針や社会情勢の変化に迅速かつ柔軟に対応し、自主性、主体性を発揮できるよう、総合戦略を総合計画から分離したいと考えております。

総合戦略改訂の背景でございますが、計画期間が 2021 から 2025 年度までとなっておりますので、2025 年度中に総合戦略を改訂するものでございます。

次に、総合戦略改訂の基本的な方針でございますが、先ほどの説明申し上げましたが、まち・ひと・しごと創生法に基づいて、地方公共団体は、国の総合戦略を勘案して、市町村まちひとしごと創生総合戦略を策定するよう努めなければならないとされております。国のデジタル田園都市国家構想総合戦略や、地方創生 2.0 の基本的な考え方などで示された新たな視点を取り入れつつ、基本目標や施策の基本的方向、具体的な事業等を改訂していくこととしております。

総合戦略も総合計画と同じように、原案を作成いたしますので、審議会において審議していただければと思います。その際の判断材料といたしまして、今回配付させていただきました資料や、今後実施予定の市民意識調査や人口推計などの結果などを参考にいただき、御意見をいただければと考えております。

会長

今の説明につきましてご質問いかがでしょうか。

委員

私から 3 点お伺いしたい点がございます。

まず 1 点目、みらいチャレンジに記載されている総合戦略は、国が求めている第 2 期のまち・ひと・しごと創生総合戦略に相当するものと考えてよいでしょうか。

政策推進課長

はい、おっしゃるとおり第2期に相当するものでございます。

委員

2点目ですが、この第2期の後に改訂される総合戦略というのは、国内の他団体の状況を見ると、デジタル田園都市国家構想に関連する地方版の総合戦略というふうな形で名称変更を随時されている状況だと思います。今回の改訂で、恐らくこの「まち・ひと・しごと」という名称を使われなくなるというイメージでいるのですが、デジタル田園都市というキーワードを入れずに変えると何かスキップしてしまうような印象もあるのですが、これに関してのお考えがあれば伺いしたいです。

政策推進課長

デジタル田園都市というのは岸田内閣のときに提唱されたものでありまして、今、石破内閣になって新しく提言がされています。詳細につきましてはまだ示されていませんが、これから国の動向を見ながら、また、審議会の皆様の御意見もいただきながら、そういったところを決めていければと思っております。

委員

おっしゃるとおり非常にタイミング的に微妙なところでして、第2期のときも、随分御苦労されたのではないかなと思います。

3点目ですが、総合計画と総合戦略の一体化に関して、計画期間が総合計画と総合戦略で合わせるのが非常に大変だったという経緯もあって、かなり当時の職員さんが御苦労された一方で、これを改めて分離するということについては、いろんな議論が起こりそうな気がしています。

別々の更新タイミングでやってこられてきて、これを前回一体化されたわけですが、改めて分離するというのは、初めてのケースじゃないかなとは思っているのですが、この分離に対して、理由を教えてくださいませんか。

政策推進課長

総合計画・前期基本計画策定の際に総合戦略を統合したのですが、進行管理上、統合したほうがいいのではないかとということで、統合させていただきました。

しかし、進めていくうちに総合戦略は、基本的には毎年、その状況を外部評価委員に報告をして、そしてそのあとに議会にも報告する。当然、その外部評価委員や議会から総合戦略の取組について御意見をいただく、また、先ほど先生がおっしゃったように国の地方創生の取組が変わっていく中で、総合計画の基本構想に組み入れましたので、当然議会へも、議案という形で提出となりますので、そうすると柔軟に変更が出来ないということが出てきました。

総合戦略は国の流れや、今の時代の流れを見て毎年いろいろなご意見をいただきながら、迅速に柔軟に変えていくほうがいいのではないかとということで今回、分離をしたらどうかということで考えております。

会長

それではほかに御質問・御意見等ありますでしょうか。

私個人的には、まち・ひと・しごと、ここにプラスアルファ教育が入るべきだとかねがね申し上げているのですが、そういった付加的な視点を見ても、須坂という地域は非常に的確な教育行政も展開されていますので、市民の皆様もそういう感覚をお持ちじゃないかと、個人的には考えております。ぜひまた今後の議論にその辺も反映していただきたいと思います。

それからデジタル化についても、今、地方でもしっかりとITC化が進んでいまして、よく言われた都会と地方の格差というものも様々な点で解消されている、ある意味で、デジタル化がこの地域でもしっかりと地域の基盤として定着してきている。

この辺も踏まえて、今後、先ほども三木市長と個人的にお話ししているのですが、人工知能がよいよい、どうやって私たちがそれを日常的に使って、日頃の生活をよ

り豊かで、そして幸せを感じるよう生活の中に導入していくかということを考えるべき時代がいよいよそこに来ております。

ちょっと専門的な言葉ですけど「シンギュラリティ」という言葉がありまして、人工知能の計算能力や判断能力、まとめる力、そういったものが2026年には人間の能力を超えるというふうに予測されています。

本来は2050年頃と言われていたのですけれども、昨今のこの人工知能に関わる技術のすさまじい進歩により、いよいよ人間の能力を超えた人工知能が来年度あたり出ると予測されています。

すごい額の投資がこの分野へ投入されるというニュースも皆さんがお聞きになっているかと思いますが、間違いなくそういう時代が来ます。

そういうときに地域の私たちが、そういうものを利用し、そして自分たちの生活やより良い地域社会をつくっていくためにも、利用していくことは避けては通れない。そういうものを避けると、結局、周回遅れだとか、また日本が世界の後塵を拝することになってしまいます。

今、すでに人工知能を使うというリテラシー、人々の生活への導入のレベルというのは、先進国の中では最低のレベルで、人工知能を私たちの日常の中に取り入れているというレベルが極めて日本は見劣りすると言われてしています。

そういう意味で、地方もそういうものをしっかり取り入れていく、地域の人々と行政との連携で教育や社会体制の中にうまく取り入れることも重要な視点かと思えます。ぜひそんな議論も皆様とともに深めてまいりたいと考えております。

④市民等からの意見聴取方法について

会長

続きまして、市民等からの意見聴取について、事務局から説明をお願いいたします。

政策推進課長補佐

今回、後期基本計画の策定、それから、総合戦略の改訂に向けて、より多くの市民の皆様から、御意見を伺う中で、策定・改訂をしていきたいと考えております。

聴取方法としては、5つの手法により実施して、市民の皆様から意見を聴取していきたいと考えております。

1点目は市民総合意識調査でございます。

目的は、過去5年間の須坂市の取組を振り返るとともに、これから5年間を見据えた、重視すべき施策、市民協働の可能性等を把握して、計画・戦略に生かすものでございます。実施概要につきましては、須坂市内に住む18歳以上の男女2,000人を調査対象といたしまして、住民基本台帳から無作為に抽出をいたします。

調査方法は郵送とインターネットを併用し、調査期間は、2025年4月下旬から5月下旬、調査項目は、市の施策やまちづくりに対する評価などについてであります。

2点目は、若者（子育て世代）意識調査でございます。

これは人口減少などの課題解決のため、若者、子育て世代を対象に調査を行って、計画・戦略に生かすものでございます。調査対象者は須坂市内に住む18歳から49歳、調査方法はインターネット調査を予定しております。調査期間は、2025年の4月下旬から5月上旬まで、調査項目は、生活就労、結婚に関することなどでございます。

3点目は、若者（高校生）意識調査でございます。

これについても人口減少などの課題解決のため、将来を担う若者、高校生を対象に調査を実施し、計画・戦略に生かしてまいります。調査対象者は、須坂市内に住む高校生とし、調査方法はインターネット調査を予定しております。調査期間は2025年4月下旬から5月上旬まで、調査項目については、今後の進路や地域への考

え方などについてであります。

4点目は、パブリックコメントで、多くの市民から意見を募りまして、計画や戦略に反映させてまいりたいと考えております。調査方法は計画の素案を公開し、市民から郵送・メール等により意見を募ります。調査期間は2025年9月中旬から9月下旬を考えております。

5点目は、施策に関連する団体とのヒアリングでございます。

施策に関連する団体から意見を募りまして、計画や戦略に反映させてまいります。調査方法は、これも計画の素案についてお示ししまして、施策担当課ごとに関連する団体から意見を徴収してまいります。調査期間は2025年9月中旬から9月下旬を考えております。

会長

ただいま、事務局から説明がありました。これにつきまして、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

委員

調査方法に関しまして、1点だけ、教えていただきたいのですが、インターネット調査、これ他団体さんの事例を見ると昨今のソーシャルメディア、特にLINE等を活用した、調査されている団体もあろうかと思いますが、現時点でこのインターネット調査、具体的にどういう手法をとられるかっていうのは、お考えありますでしょうか。

政策推進課長

いま考えていますのは、ながの電子申請を考えております。ただいま委員からLINEというご意見をいただきましたので、当然目的は、より多くの方に回答いただくということがありますので、研究させていただければと思います。

会長

インターネット等、使うっていうことも大事ですが、地域ごとに対面でいろいろ御説明いただくようなこともありました。対面の説明会みたいなものは考えていないのでしょうか。

政策推進課長

構想が出来ましたら、御意見を聞ける場所があれば、いろいろなところで、そういった形を進めていきたいと思えます。

委員

2点質問させてください。

調査の2番と3番ですが、1番に関しては男女2,000人という形で数字が出ていますが、2番・3番に関して大体何人ぐらいまでを予定されているかということと、3番の高校生に関しては、実施予定者の対象が須坂市内に住む高校生っていう形になっていて、須坂市内に住む高校生限定という感じでしょうか。市外から通われている方がかなりいると思うので。

政策推進課長

高校生の関係につきましては、今おっしゃられたとおり、須坂市内の高校に通っている市外の方もたくさんいらっしゃるの、当然そういった方にもアンケートに答えていただいてもいいのかなと感じました。そのように進めさせていただければと思います。

また、若者（子育て世代）の調査については、どこまで広げていくかというのがありますが、保育園の保護者やPTAの皆様へ学校を通じて依頼するなど検討してまいります。なお、前回の前期基本計画のときには316人に回答をいただいております。

会長

ぜひ須坂に通学してらっしゃる高校生、これは私たち須坂市にとっては大事な仲

間ですので、彼らの御意見もぜひ積極的に聞いていただきたい。恐らく高校時代、須坂で学んだというのは一生ついてまわる非常に大事なファクターでありますので、よろしくお願いいたします。

また、地域づくり、まちづくりにおいて、高校生はある意味で中心的な未来志向の対象ですので、若者（高校生）、この辺はひとつしっかりと御意見をまとめていただきたいですね。

委員

LINE でのアンケートについて、10 代以上の方は LINE をよく使われと思うので、ぜひ検討をお願いしたいです。

また、アンケートを例えばカッタカタまつりとかで対面で紙を渡して行うというのもどうかと思います。私は学生時代に観光地でアンケート調査をしたこともあるので、インターネットと対面という 2 通りもありかなと思います。

政策推進課長

御提案ありがとうございます。市の公式 LINE もありますので、市の公式 LINE も活用する形で進めていければと思います。

それから対面の関係も御意見ありがとうございます。アンケート用紙をその場で書いてもらうのは難しいかと思うので、QR コードなどでアンケートをお願いしますという形もできるのかなと思いましたので、工夫してみたいと思います。

⑤その他

—今後のスケジュールについて事務局より説明—

会長

全体を通して何か御意見ありますでしょうか。

委員

今、小・中学校で恐らく、コミュニティスクールということで、学校評価がされていると思うのですが、各学校で PTA・保護者の方から様々な御意見が多分集積されていると思うのですが、その辺りを学校教育課なり教育委員会で、地域の方たちや、子育て世代のお子さんや親御さんが学校で悩まれているようなことをまとめて、小中学校での学校教育の在り方みたいなものを聞いていくようなことは可能かどうか。

政策推進課長

ありがとうございます。大事な視点だと思います。またこの辺も研究させていただきます。

会長

具体的な教育の施策については、教育委員会で中心的にやっていただくのですが、やはり 1 番お金かかるのは義務教育、小・中学校。

それは市が責任を持って教育している部分なのですが、多くの人は高校を出て大学を出て、須坂から出ていってしまう。行政で十分なお金をかけて教育して、人材を育てて、それがまたこの地域に戻ってきてくれるような人材であってほしい。それでこそ持続可能性というのが生まれるので、そういう非常にロングレンジの教育というものをぜひ見ていただきたい。

やはり須坂を愛するという教育がこの義務教育でなされると、大学を出て都会へ出ても、また高校を出て外へ就職してもまた地域へ戻ってきて、この愛する故郷、愛する地域のために、またそこで生活していきたいという雰囲気が出る。これも教育の責任だと思いますので、もちろん、いいまちをつくっていけば、自然に地域へ戻ってくるのですが、一つ教育も重要なファクターだと認識されますので、そういう教育というものを皆さんとどうあるべきか考えていきたいと思います。

本日予定した時間が少々ございますので、せっかくの機会ですので、全体を通して、もう一度簡単に結構ですので各委員から一言、審議会にかけのお気持ち等をお話いただければと思います。

委員

私は病院という立場から市民の皆様の健康維持、それから健康の増進、そういったことを中心にお力添えできれば幸いに思っております。ぜひ協力して進めていきたいと思えます。例年、病院のお祭りと市の健康まつり、これ同時に開催させていただいておりますけども、そういったことを通じまして、市民の健康に貢献していければというふうに考えております。

委員

私が市役所から書類が届いたときは、母の認知症が進んで介護認定の手続をしている時期でした。そこから、市と関わることが多くあり、せっかくなので、ということに応募しました。

子育て世代でもありますので、本当に私がここにいること自体がとても場違いであるとは承知しているのですが、皆様にいろいろ教えていただきながら、勉強しながら、努めていきたいと思っております。

委員

今、福祉関係に関与しておりますが、やっていまして感じますことは、須坂市民の多くがほかの人に寄り添った生活ができる、そういう市民が増えればいいなと思っています。いわゆる相手のことを思うことによって、自分自身も非常に楽になると思うのですよね。だからそういう人になるべく多くなるような須坂にしたいなと思っております。

委員

先ほど会長からもお話がありましたけれども、教育に力を注ぐ、そこに仕事にも力を入れていただきたいなとても思っております。やはり魅力ある仕事がないと、戻ってくる子供たちも戻ってこないというのをすごく感じております。

あと保健補導員としまして、地域、町の人たちの顔が見える生活が出来たらいいなと思っております。やはり、認知症になって家に引きこもってしまって寂しい生活を送るのではなく、顔が見える生活が出来たらと日々思っております。

委員

私の立場上、インター周辺の開発、今年の秋には爆発的に須坂は変わっていくだろうと思っております。人口動態や交通動態も含めて。

既に、変化の助長というか、兆しが現地では起きてきているところで、ちょうど、イオンモール須坂がオープンするか、したぐらいのところで、計画をまとめていかなければならないということになるので、この大きな変化を後期の計画にどのくらい反映することができるか、あるいは予測して組み入れることができるか、非常に心配しているところですが、できれば予測して、あらかじめ計画に反映できればいいと思っております。

委員

前期基本計画に私の名前があるので、もう5年も経ったのかと思ったのですが、私の場合は、特に農業関係の団体として出ていますので、5年が経ちまして、確かに農業の関係見ても、農業をやっている方が本当に高齢化し、担い手不足で、遊休荒廃農地も非常にひどい状況なので、今後5年間のそうした問題についていろいろと申ししていきたいと思っております。

委員

私も5年前にここの席にいましたので、しっかりとまた意見を挙げられるように、まず学んでまいりたいと思えます。

男女共同参画推進市民会議という立場から言いますと、男性も女性も輝く、一人

ひとりが1人の人間として、須坂市で本当に住んでよかったというまちになってもらいたいという、そういう願いの中で、また意見をお話ししてまいりたいと思います。

ちょっと違う話ですが、私、昨年、町の副区長を仰せつかりまして、1年間活動させていただいたのですけれども、私の町に障がいを持ってらっしゃる方の施設があり、社協に来ていただいて、ボッチャをやったのですね。私、初めてボッチャやりまして、とても楽しかったのです。

そのときに、町でボッチャをやりますって回覧をさせていただいたときに、障がいを持ってらっしゃる施設の皆さんが、ぜひ参加したいということで、公会堂に来てくださいました。お声をかけてどうでしたかって聞いたら、とっても楽しかったっておっしゃって、本当によかったなと思いました。

先ほどからの教育というお話が出ていますのですけれども、やはり障がいを持ってらっしゃる方も、本当に須坂市に住んで幸せを感じるような、そういう地域になってほしいなって思っておりますので、そういった角度からもまた、気がついたら御意見述べたいと思います。

委員

私も5年前、この席にいたことを思い出しました。今、民生委員は本当に高齢化で担い手不足、どなたになっていただいてもうれしいのですが、やはり生活を考えたりすると、年齢的には難しい面もあるのかなという思いもあります。

最近も3市町村の民生委員の会長と相談しまして、交流会が実現しまして、やはり社協と連携していかなくてはいけないものですから、ボッチャで交流をさせていただいて、様々な交流が出来たことすごくよかったと思っております。

令和に入ってから子供たちがすごく少なくなっぴくりしました。ぜひ、ボランティア精神など、まちに優しい子供たちをたくさん育てていただければ、将来、学んで帰ってきたときに、福祉の世界に戻ってきてくれるのかという思いもございますので、子供たちにとっては、勉強もとても大事なことなのですが、こうした環境づくりもしていただければうれしいと思っております。

1冊の中に詰まる、たくさんの意見があると思うのですが、少しずつでもいいと思っておりますので、人に優しいまちづくりを育てていくようなそんな施策を考えながら、5年間どうなっていくのかなという楽しみもあります。

委員

今年度から観光協会の会長をやっているのですけれども、僕も東京から移住して40年近くになります。

観光の大切さもそうなのですが、やはり1番大切なものは教育だと思っています。

僕自身もこの地域に育った子供たちが戻ってくることが理想だと思ってはいたのですが、秋田かどこかの大学で、そこで育った子供たちが、県外・世界へ羽ばたくことに誇りを持っているという教育をしていることを聞いたときに、ちょっと誤解を招くといけませんが、須坂市内に子どもたちを囲うのではなくて、自信を持って教育できるまちにしていきたいなと思っています。

そのために必要なのは、私たち大人が峰の原のペンション村もそうなのですが、ワクワクしながらニコニコしながら自信を持って今の生活を、しっかりと幸せを、幸せというか、楽しくてこんなにいいとこないよっていうのを、子供たちに、空気感で伝えていきたいなというふうに思っています。それこそが地域に根差す子供たちをつくっていくような気がします。

そうしないと、やはり、子育て世代も含め、何か疲れたとか仕事がないとかそういう形のネガティブな空気感を出すことほど、子供たちが離れていくと思っています。

同時に今、須坂も子育て世代の移住者が増えていると思うのですが、須坂で子育て

てをしたいということは、子供たちの親御さんの意見っていうのは、なるほどなあと思うこともあるし、実際、須坂に通っている子供たちは本当に生き生きして、この子供たちが真っすぐ育つためにはどうしたらいいかっていうまちづくりについて、観光を通してしていきたいと思っています。

たまたま私は役職で会長を1期2年の任期でやっていますが、あつという間に1年が終わり、来年2年目になりますが、時間は限られているので、その辺りを、この場も借りながら死に物狂いでやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

委員

自己紹介みたいな話になってしまいますけれども、私は他の市町村出身ですが、高校時代を須坂市で過ごし、それから大学を出て、県内中ちょっと移動しまして、それで10年ぐらい前に須坂に定住させていただきました。

この須坂で1番感動したのは、長野盆地を見渡せる景色のいいところ、飯綱山をはじめとする眺望のいいところが1番気に入っておいりましたので、そのときの移住してきた感じを市民の皆さんとかにお伝え出来て「須坂はすばらしいまちなのだよ」ということを皆さんと共有していきたいと思っています。

委員

私も保育園の保護者会の代表として出させていただいたのですが、皆さんと比べて人生経験が少なく、ここで十分な意見が出せないと思ひ、毎年、保護者アンケートを行って、そこで意見が出たものもぜひこちらに反映できればと思ったのですが、どんなアンケートを行うかというのは自分たちでまず考えなければいけないので、もしこちらで、具体的にこういうことが知りたいというのがあれば、ぜひそちらを早めに教えていただいて、来年度の春から行うアンケートの参考にさせていただければと思います。

また、私は今、2歳児と5歳児を育てているのですが、毎週のようにイベントに行ったりとか公園にも出かけて、具合が悪くなれば病院にも行って、今、親は健在なのですが、いずれ介護の心配があったりとか、子育て世代なのですが、結局周りの方たちの助けがないと出来ない、そういう方たちの意見も取り入れられる機会があればと思っています。

委員

まずもって地元を離れてしまっして申し訳ありませんでした。

一応、近年では関係人口というようなキーワードも出てきて、定住された人口でもなく、観光で訪れた方でもない方が、その地域の地域づくりとか、地方創生を担う人材として期待されているということで、私は地元を離れた人間の1人として、須坂を外から応援できるような、そんな仕組みが出来たらいいなと思っていますし、既に須坂市ではそういった取組を都内でも積極的にされているところで、ぜひ関係人口を募る仕組みがより発展できるといいと思いました。

それで、総合計画にも関係するのですが、2030年までSDGsという取組、計画の中ではマークで示されているのですが、その次の指標として今注目されているのが、持続可能な幸福度「SWGs」といいますが、これが今注目されています。

みらいチャレンジの中では既に「豊かさと幸せ」という、この「幸せ」というキーワードが入っているので、大変先見性のあるスローガンだなというふうに思っています。本当に須坂市に生まれて幸せだなあというふうに感じております。

会長

ありがとうございます。委員の皆様、すばらしい御意見をお持ちですので、この審議会は期待ができると感じました。